

2019年（令和元年度）

# 小畠病院年報

Kobatake Hospital Annual Report

# 病 院 長 挨拶



2020年4月1日より前病院長の小島敬太郎から病院長職を私、小島廉平が引き継ぎました。そしてこの度、令和に入って初めての年報を上梓いたします。

前病院長が1983年4月にこの病院に戻ってきた時、私は小学校に入学する直前で、当時はまだ本館ができたばかりだったと記憶しております。それから37年が経過し、その間にハード面では中館新築と本館の改修、東館の新築、そして最近では院内改装と北館の新築を行いました。ソフト面では病院中館の新築と本館改修の際に、急性期一般病棟と老人特例病棟（現在の医療介護病棟）のケアミックス型の病院となりました。そして東館新築の際にリハビリテーション科を新設、院内改装と北館新築の間にそれまで休床状態だった4床を整備し、一般病棟をすべて地域包括ケア病棟に転換しました。

私が当院に戻ってきたのは2013年4月で、医師になってちょうど10年目という節目の年でした。当時、福山市北部は、悪性腫瘍や心筋梗塞といった疾患に対する高度先進医療以外のサブアキュートや、手術後のリハビリ、在宅支援といったポストアキュートを積極的に受け入れる医療機関が非常に少ない状況でした。そのため当院が積極的にこれらを受け入れていくことを意識し、職員一丸となって取り組んだ結果、近隣の医療機関からも信頼をいただき、紹介件数が概ね増加傾向で推移しております。111床という限られたリソースではありますが、必要とされる医療を提供し、患者さん一人ひとりが在宅や施設で安心して過ごせるようお手伝いさせていただくことで、国が提唱する「地域包括ケアシステム」の一翼を担っていきたいと考えております。

昨年度は、2020年の始まりと同時に、新型コロナウイルスの流行という100年に一度のパンデミックが発生し、世界規模で未曾有の事態に陥りました。全ての医療機関が地域医療を支えるため日々奮闘しておられる中、当院としましても地域医療に貢献すべく、地域に望まれる理想の医療を目指して職員一同努力してまいります。

私も病院長職を引き継いでまだ間もなく、浅学非才の身ではありますが、今まで以上のご指導とご叱責のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長 小島廉平

# 病院理念

地域に望まれる理想の医療を目指して

## 基本方針

1. 私たちは患者さんの立場に立ち、安心して満足できる医療を提供します。
1. 私たちは患者さんに心から信頼される医療人を育成します。
1. 私たちは地域に密着した病院としての機能向上を図ります。

## 職員心得10句

1. 挨拶はすべての始まり社会人
2. 職場では笑顔と返事忘れない
3. 今日もまた明るく清くヒトとモノ
4. 何事も基本にもどる手引きかな
5. 旧弊は振り払うべし若者よ
6. いつまでも試行錯誤を恐れない
7. みんなして同じエラーを二度しない
8. 今日から必要なことをすぐやろう
9. 明日からはやれない訳（わけ）を探さない
10. 枯れるまでいつも心は向上心

# 病院概要

(2020年4月1日現在)

名称	医療法人社団玄同会 小島病院
開設	1986年3月（創立：1965年2月）
所在地	〒720-1142 広島県福山市駅家町大字上山守203番地
	電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309
理事長	小島敬太郎
病院長	小島廉平
副院長	大口泰助
看護部長	佐野京子
事務局長	矢吹秀介
標榜科	内科・外科・泌尿器科・眼科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・ リハビリテーション科
病床数	一般病床（地域包括ケア病棟入院料1）：52床
	療養病床（療養病棟入院基本料1）：59床
職員数	220人（2020年3月末現在）
建築面積	1,532.34㎡
延床面積	5,371.35㎡
保険医療指定機関 認定施設	各種社会保険療養取扱機関
	国民健康保険療養取扱機関
	老人医療取扱医療機関
	労働災害保険取扱機関
	生活保護指定医療機関
	身体障害者福祉法医療機関
	特定疾患治療取扱医療機関
	原子爆弾被爆者一般医療機関
	結核予防法指定医療機関
	介護保険療養取扱機関
	人間ドック実施医療機関
	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院 【認定第JC637-3号、機能種別版評価項目3rd:ver.1.1）】
	厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号031937）
	日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号900089）
	日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号20070816号）
	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院
広島県地域リハビリテーション協力病院	

併設事業所	居宅介護支援事業所こばたけ
	訪問看護ステーションこばたけ
	デイサービスむべやま
	ケアモール芦花 (サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花)
	ヘルパーステーション芦花
	短期入所療養介護事業所
	短時間通所リハビリテーション
付属施設	小畠病院託児所

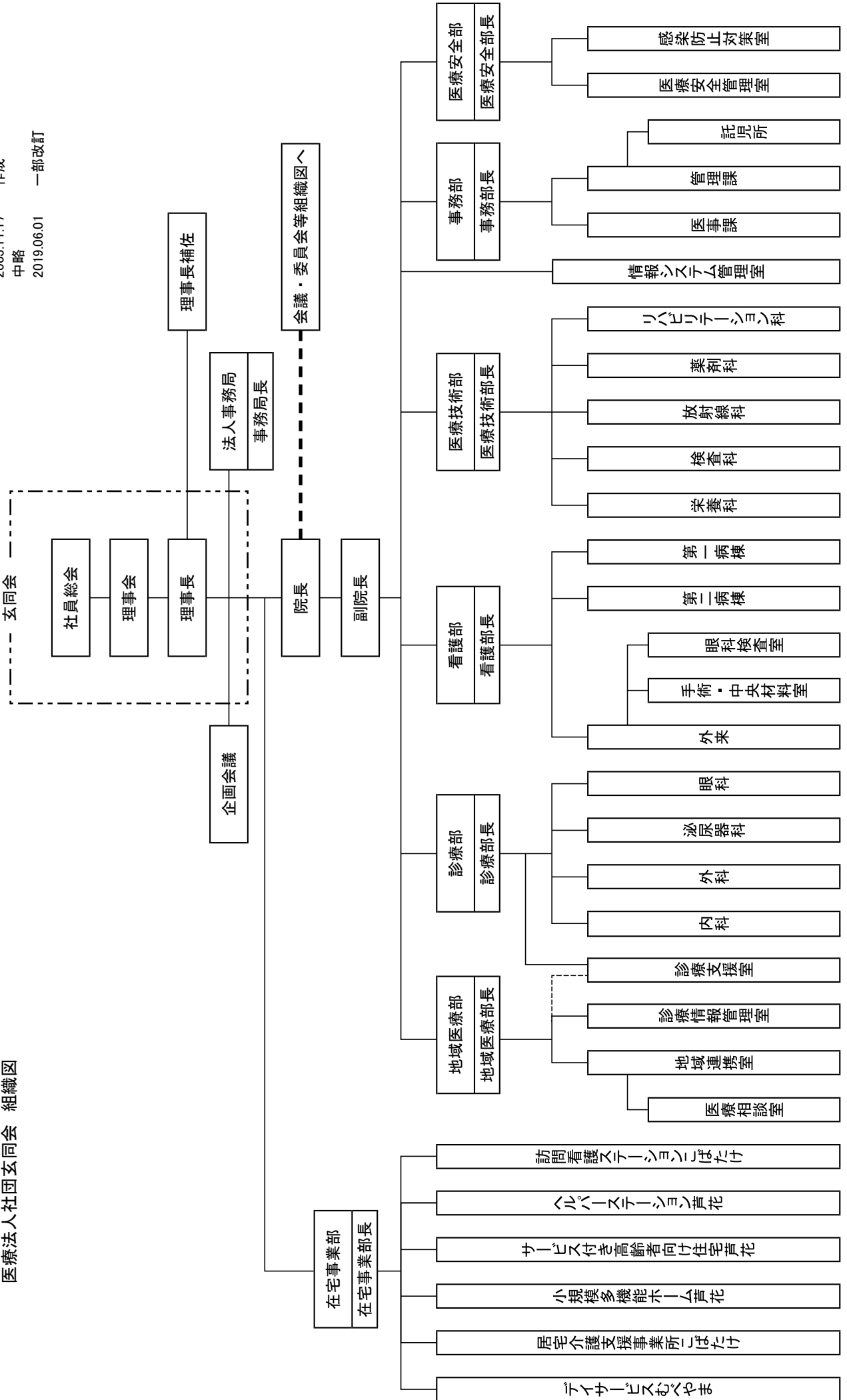
# 病院沿革

1945年	旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、小島医院を開設 病院長 小島三喜男
1950年	一次休止
1957年 3月	小島内科再開
1965年 2月	現在地に小島病院設立 内科・外科（27床） 病院長 小島三喜男
1974年 3月	34床に増設
1974年 4月	厚生連より運営を委譲され服部診療所開設
1980年11月	泌尿器科標榜 透析治療開始
1982年12月	本館完成 111床に増設
1983年 9月	神経内科標榜
1986年 3月	医療法人社団玄同会設立 理事長 小島三喜男
1986年 9月	小島敬太郎 理事長・病院長に就任
1989年 2月	胃腸科（現、消化器内科）標榜
1989年 4月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）導入
1989年12月	透析治療終了
1992年 6月	眼科標榜
1992年 9月	基準看護承認 基本看護1（一般病棟52床） 特例看護1類（老人特例病棟47床）
1992年10月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）施設承認
1993年 9月	日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される
1993年12月	中館完成
1994年11月	託児所完成
1996年 4月	第1回病院祭開催
1997年 1月	服部診療所新改築
1997年 4月	第2回病院祭開催
1997年 7月	ホームページ開設
2000年 3月	東館完成
2001年 4月	第3回病院祭開催
	院外処方箋開始
2002年 9月	小島病院訪問リハビリテーション事業所開設
2003年 3月	小島病院居宅介護支援事業所開設
2003年 7月	広報誌「葦」創刊
2003年10月	厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される
2004年 4月	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に指定される
2004年 6月	本館増築工事完成
	小島病院デイサービスセンターむべやま完成
2005年 4月	広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される

2005年 8 月	公益社団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される
2006年 5 月	第4回病院祭開催
2006年10月	服部診療所閉院
2007年12月	オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入
2008年 4 月	地域連携室開設
2008年 7 月	PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入
2010年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される
2010年10月	一般病棟52床（内 亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
2013年 3 月	ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所
2013年10月	小島病院訪問看護ステーション開設
2013年11月	亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
2014年 8 月	循環器内科標榜
2015年 2 月	電子カルテシステムの導入
2015年 8 月	日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2016年 4 月	福山市一般二次救急病院群輪番制に参加
2016年11月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更
2017年 3 月	ヘルパーステーション芦花開設（ケアモール芦花大幅増築）
2017年 4 月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更
2017年10月	第5回病院祭開催
2018年 1 月	通所リハビリテーション（デイケア）開設
2018年 3 月	院内託児所新築移転
2018年 8 月	北館完成
2018年10月	訪問看護ステーションこばたけ 神辺サテライトステーション開設（2020年3月閉設）
2019年10月	デイサービスむべやま増改築
2020年 4 月	小島廉平 病院長に就任

医療法人社団玄同会 組織図

2003.11.17 作成  
 中略  
 2019.06.01 一部改訂



## ■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、理事長の専門とする脳神経内科、院長による循環器内科・プライマリー医療、原医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉

常勤医師……3名

非常勤医師…8名

## ■活動実績

2019年度の内科全体の外来患者数は延べ22,845人で、対前年度比3.1%減でした。(表1) 入院では新規入院患者数が640名、延べ入院患者数は31,133人となっています。(表2)

一般病棟の入院診療は、院長・内科医師と毎日交替で回診をし、それに加えて理事長の総回診もあります。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、外科系の医師やコメディカルスタッフも含めたカンファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。入院症例は肺炎が最も多く、続いて大腸ポリープ、心不全、悪性新生物、パーキンソン病、睡眠時無呼吸症候群となっています。糖尿病、呼吸器、循環器の各科専門医の在院日には専門医の対診も合わせて行っており、睡眠時無呼吸は脳神経内科と呼吸器内科で診療しています。

2016年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、2019年度は当番回数49回、受け入れ患者数は152名でした。(表3)

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院として73件の往診、512件の訪問診療を行い、318件の医学総合管理料を算定しました。(表4)

## ■診療実績・統計

(表1) 外来延べ患者数

(単位：人)

	2017年度	2018年度	2019年度
初 診	2,455	2,252	2,162
再 診	22,529	21,317	20,683
合 計	24,984	23,569	22,845

(表2) 入院患者数

(単位：人)

	2017年度	2018年度	2019年度
新規入院患者数	570	618	640
延べ入院患者数	29,381	30,238	31,133

(表3) 輪番当番日の受け入れ状況

(単位：件)

	2019年										2020年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
受入数	14	12	10	19	17	13	9	11	15	11	11	10	152	
救急搬送	4	4	4	6	4	4	5	2	6	6	3	4	52	
ウォークイン	10	8	6	13	13	9	4	9	9	5	8	6	100	

輪番当番体制時間帯（18:00~8:00）での受入件数

(表4) 在宅関連件数等

(単位：件)

	2017年度	2018年度	2019年度
延べ往診件数	139	74	73
延べ訪問診療件数	849	737	512
在医総管・施医総管算定件数	422	363	318
在宅看取り件数	9	12	13

## ■ 脳神経内科 .....

当院では神経系の病気（脳神経内科疾患）はあえて専門外来とせず内科外来の1つのブースで診ています。個々の内科医の subspeciality が何であれ、初期医療においてはまず全身を診るべきであると考えています。

当科では、頭痛やめまい、手足のふるえやしびれ、喋りにくい・飲み込みにくい、ふらついたり足がすくんで歩けない、意識障害やけいれんなど様々な訴えで受診された方々の病歴を、要領よく丁寧に聴取します（病歴整理係と揶揄されています）。そして一般身体所見や神経学的所見に基づいて病気の見当をつけます（ローテク神経内科）。さらに血液や尿の検査、X線CTなどの画像検査を参考に正しい診断を下します。特殊な検査や、手術などの専門的で高度な医療が必要な場合は、適宜連携している高次医療機関へお願いさせて頂いています。

脳神経内科疾患としては、片頭痛を中心とする頭痛患者さん、パーキンソン病とその関連疾患、脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病の早期診断と長期 follow up を行っています。当院は広島県の難病協力病院に指定されており、神経難病の病初期から進行期・末期まで様々なステージの患者さんに対して、薬物療法、リハビリ、合併症の予防や管理などを行っています。さらにレスパイト入院や当法人の運営する訪問看護ステーションのほか、地域の診療所や在宅医療専門の先生方、そして他の訪問看護ステーションにもお願いして、できるだけ患者さんとご家族の満足度を上げるように努力しています。

急性期脳血管障害や急性炎症性疾患は高次医療機関にお願いしています。回復期になれば当院で引き続き治療やリハビリを行うような役割分担もできています。

(表1) 外来の主な神経疾患

(単位：人)

		2017年	2018年	2019年
パーキンソン病及び パーキンソン関連（※1）	初診	45	26	28
	再診	1,220	1,274	1,298
多系統萎縮症	初診	2	0	2
	再診	26	26	22
筋萎縮性側索硬化症	初診	2	0	2
	再診	19	15	14
脊髄小脳変性症	初診	0	4	1
	再診	340	418	359
ハンチントン病等その他	初診	2	3	3
	再診	107	127	94
認知症	初診	53	33	35
	再診	1,159	1,133	1,064

※1 パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

(表2) 頭痛患者の内訳

(単位：人)

		2017年	2018年	2019年	
片頭痛	初診	38	31	27	
	再診	770	662	687	
緊張型頭痛	初診	53	25	25	
	再診	1,483	1,379	1,334	
群発頭痛	初診	0	2	0	
	再診	7	18	7	
MOH (※1)	片頭痛	初診	8	3	4
		再診	225	209	180
	緊張型頭痛	初診	1	0	1
		再診	13	0	0

※1 薬物使用過多による頭痛

(表3) 新入院の内訳

(単位：人)

	2017年	2018年	2019年
パーキンソン病及び パーキンソン関連 (※1)	70	64	70
多系統萎縮症	2	0	8
筋萎縮性側索硬化症	8	7	7
脊髄小脳変性症	7	6	3
ハンチントン病等その他	1	0	0
認知症 (※2)	92	112	107

※1 パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

※2 認知症を伴うもの

## ■ 消化器内科 .....

消化器内科では胸やけ、腹痛、嘔吐、便秘異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次機能病院へ紹介し治療に結び付けています。近年増加傾向にある逆流性食道炎に対する維持療法や、萎縮性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次機能病院からの癌終末期患者さんの紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

消化器内科各検査・各処置件数

(単位：件)

	2017年度	2018年度	2019年度
内視鏡検査			
上部 (食道・胃・十二指腸)経口	479	478	387
上部 (食道・胃・十二指腸)経鼻	565	579	646
下部	337	366	404
内視鏡処置			
内視鏡的大腸ポリープ切除術	82	70	84
胃瘻造設術	31	35	29
胃瘻交換	117	121	144
腹部超音波検査	535	503	502

## ■ 循環器内科 .....

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週一回岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院は高血圧、心不全の高齢患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。急性冠症候群や明らかな重症弁膜症から来る心不全など、緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要な場合は、患者さん本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院などの専門機関に紹介しております。緊急性は無いものの、後に心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。逆に専門機関からの継続加療目的にてご紹介いただいた患者さんについては、当院でお受けしています。

2019年度は心不全の初診患者数はやや増加しておりますが、再診患者数は減少しております。これは近隣の開業医の先生方へ継続加療を依頼したり、亡くなられた方も多かったためと思われま。不整脈や高血圧の初診患者数は減っておりますが、こちらについても新たに認められた不整脈の精査やコントロール不良な高血圧の患者さんがいらっしゃればご紹介いただければ幸いです。

2019年度より心不全チームを立ち上げて1年が経過し、入院中の心不全患者さんに対する在宅復帰への指導や、在宅復帰後も心不全増悪を防ぐための心不全手帳を使った継続的な指導体制も軌道に乗ってきております。ただ心不全の末期で残念ながら当院で亡くられる方もこれから増えてくるとわれ、そういった方に対する緩和医療についてもこれから取り組んでいきたいと思っております。

当院でできる事は限られていますが、その中で出来る限りの対応や治療を行っていききたいと思っております。

## ■ 診療実績・統計

(単位：人)

		2017年	2018年	2019年
心不全	初診	52	41	46
	再診	2,499	2,397	2,171
不整脈 AF、PSVT含む	初診	24	13	11
	再診	1,613	1,469	1,121
弁膜症 AS、MR含む	初診	6	2	6
	再診	255	237	232
高血圧症	初診	177	186	118
	再診	13,101	12,062	10,729
先天疾患 ASD、VSD含む	初診	0	0	1
	再診	0	0	1

## ■概要

2016年6月より外科診療を中井医師1名で再開しました。一般的な外科の初期治療を主体に行われてきましたが、2018年8月より内分泌外科専門医の和久医師が常勤として勤務するようになり、外科医2人体制となりました。

入院に関しましては、高次機能病院での外科・整形外科手術後のポストアキュートケア症例の受け入れなどを行っています。手術に関しましては、鼠径ヘルニア等の小手術にも対応しています。

特に和久医師が専門とする全身麻酔下の甲状腺・副甲状腺疾患の手術では、甲状腺癌、バセドウ病の手術件数が増加しています。また副甲状腺疾患に関しましては、尿路結石や骨粗鬆症をきたした副甲状腺機能亢進症の患者さんに対して副甲状腺摘出術を行っています。中国四国地区で有数の尿路結石治療成績を誇る当院泌尿器科の協力もあり手術件数も増加しています。

以前、当院で片桐医師が内分泌疾患診療を担当され、福山市および福山市周辺地区の内分泌疾患診療に多大な貢献をされてきました。以前にも増して、福山市および福山市周辺地区の内分泌疾患診療に貢献できますよう、微力ながら尽力する所存ですので何卒宜しくお願い致します。

## ■診療実績

### 1. 外来延べ患者数 (単位：人)

	2017年度	2018年度	2019年度
初診	527	806	681
再診	1,414	1,818	2,516
合計	1,941	2,624	3,197

### 2. 入院患者数 (単位：人)

	2017年度	2018年度	2019年度
新規入院患者数	66	95	117
延べ入院患者数	1,774	1,815	2,266

### 3. 手術件数

(単位：件)

手術症例	2017年度	2018年度	2019年度
鼠径ヘルニア根治術	10	19	21
大腿ヘルニア根治術	0	1	0
甲状腺切除術	0	15	24
副甲状腺切除術	0	4	10
頸部リンパ節郭清	0	0	2
頸部リンパ節生検	0	0	1
外痔核血栓摘出術	0	1	0
経肛門的ポリープ切除術	0	1	0
ひょう疽手術	0	0	0
アテローム切除術	0	0	0
大腿腫瘍切除術	1	0	0
背部皮下腫瘍切除術	0	0	0
粉瘤切除術	5	1	3
脂肪腫摘出術	0	0	1
疣贅切除術	0	0	0
ポケット切開術	0	0	0
抜爪術	1	0	0
気管切開術	2	0	1
CVポート挿入留置	5	2	2
合 計	24	44	65

### 甲状腺・副甲状腺手術件数の内訳

(単位：例)

甲状腺悪性疾患（癌・悪性リンパ腫）	15
バセドウ病	5
悪性疾患と鑑別を要する良性腫瘍	6
副甲状腺疾患（癌・腺腫・過形成）	10

## ■概要

泌尿器科は泌尿器科専門医・指導医である常勤医師2名と、非常勤医師2名とで診療にあたっています。また、日本泌尿器科学会教育施設であり、研修医の受け入れも随時行なっています。2019年度の外来患者数は延べ16,693人、新規入院患者数は549人でした。入院症例の内訳では結石が242例で最も多く、全体の44.1%を占めています。2019年度はESWLの機器更新を行いました。これからも地域における結石治療により積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## ■診療実績・統計

### 1. 外来患者数 (単位：人)

	2018年度	2019年度
初診	2,394	2,486
再診	15,203	14,207
合計	17,597	16,693

### 2. 入院患者数 (単位：人)

		2018年度	2019年度
新規入院患者数	男性	470	428
	女性	135	121
	合計	605	549
延べ入院患者数		4,360	4,099
平均年齢		69.31歳	69.37歳
平均在院日数		7.90日	8.16日

### 3. 入院総数の主な内訳 (単位：人)

		2018年度	2019年度
悪性腫瘍	前立腺癌	69	61
	膀胱癌	68	51
	腎盂・尿管癌	6	5
	腎癌	0	1
結石	腎・尿管	219	218
	膀胱・尿道	24	24
炎症	腎盂腎炎	47	49
	前立腺炎	16	15
	精巣上体炎	2	6
	その他	4	6
良性腫瘍	前立腺肥大症	89	61
	その他	7	6
その他		54	46
合計		605	549

### 4. 手術総数の主な内訳 (単位：件)

		2018年度	2019年度
結石手術	ESWL (体外衝撃波による結石破碎術)	270	209
	経尿道的尿管結石摘出術 (うちレーザー)	80(52)	95(65)
	経皮的尿管結石摘出術 (うちレーザー)	5	5
	経尿道的膀胱尿道結石摘出術	32	23
前立腺肥大症	TUR-P (経尿道的前立腺切除術)	26	25
	メモカス留置	3	1
悪性腫瘍手術	前立腺全摘出術	0	0
	後腹膜鏡下腎摘出術	0	0
	後腹膜下尿管全摘出術	0	3
	TUR-BT (経尿道的膀胱腫瘍切除術)	43	43
	膀胱多部位生検	24	8
前立腺生検		106	73
その他		62	47
合計		651	532

## ■概要

当眼科は1992年6月の開設以来、27年目を迎えました。白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っています。4月よりコンタクトレンズ初心者の受け入れを再開しました。また、糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めています。

〈スタッフ〉

常勤医師……………1名

## ■診療実績・統計

1. 外来延べ患者数 (単位：人)

	2017年度	2018年度	2019年度
初 診	2,392	2,361	2,555
再 診	6,594	6,335	6,128
合 計	8,986	8,696	8,683

2. 各検査件数 (単位：件)

	2017年度	2018年度	2019年度
矯正視力	7,639	7,392	7,510
調節	109	117	100
負荷後屈折	14	19	28
眼圧	6,233	6,098	6,084
静的視野 (オクトパス)	298	321	385
動的視野 (GP)	8	8	8
精密眼底検査 (片側)	12,037	11,511	11,749
眼底カメラ撮影	62	58	98
眼底三次元画像解析 (OCT)	1,415	1,374	1,361
細隙灯顕微鏡検査	7,023	6,845	6,948
眼鏡処方	167	201	200
コンタクトレンズ処方	2,061	2,009	2,006